

□ 要請番号 (JL30626A06)



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
ボリビア	C105 バイオテクノロジー	20~45歳のみ	個別	新規	2年	・2026/3・2027/1・2027/2

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

教育省

2) 配属機関名 (日本語)

サン・アンドレス大学農学部

3) 任地 (ラパス県ラパス市) JICA事務所の所在地 (ラパス県ラパス市)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (徒歩で約0.0時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

配属先は首都ラパスにあるボリビア最高峰の学府、国立サン・アンドレス大学農学部である。教育、研究、社会との連携を柱とし、地域ニーズに基づいた農業技術の開発を行っている。活動拠点は、ラパス市内の農学部キャンパスにある研究統括機関の農牧・自然資源研究所と、ラパス県内にある次の4つの試験場である。1.コタコタ(ラパス市内・高地)、2.チョケナイラ(ラパスから車で約1時間・高地)、3.パタカマヤ(車で約2時間・高地)、4.サペチョ(車で約6時間・低地)。対象はバレイショ、キヌア等の高地作物から熱帯作物のカカオ・コーヒーまで多岐にわたる。各試験場では学生の実習や地域農家への技術普及を行っている。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

ボリビアでは「バイオテクノロジー=遺伝子組み換え(GMO)」という誤解があり、非GMO分野の技術普及が遅れている。同大学では、組織培養技術を用いたウイルスフリー苗の生産や、在来種の保存・活用を目指しているが、実技指導を行える専門人材が不足している。特に、学生に対する実践的なプロトコル(手順)の策定と指導、および地域農家に対してバイオテクノロジーの有用性を伝える普及活動を強化するため、本要請に至った。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

配属先同僚と共に、メインキャンパスの農牧・自然資源研究所及び各試験場で以下の活動を行う。

- 植物組織培養(例:マイクロプロパゲーション、in vitro保存、ウイルスフリー苗生産)の実践的なプロトコル(手順書)の作成および改良。
- 作成したプロトコルを用いた、学生への組織培養技術(無菌操作等)の実習指導。
- 在来作物の表現型・生理学的特性評価(栽培試験による生育調査、選抜)の支援。
- 地域農家に対し、組織培養苗の展示などを通じてバイオテクノロジーの利点を紹介し、理解を促進する普及活動。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

クリーンベンチ(Tecquimica製)、蒸留水製造装置(Orto Alresa)、マグネチックスターラー、オートクレーブ(AES)、マッフル炉等。

4) 配属先同僚及び活動対象者

配属先同僚:
学部長(農業技師、経験35年)、研究所責任者(農業技師、経験12年)、各試験場責任者、教員(農業技師、経験20年)

活動対象者:
大学生、地域農家

5) 活動使用言語

スペイン語

6) 生活使用言語

スペイン語

7) 選考指定言語

言語問わず(レベル:D)

【資格条件等】

[免許/資格等]: ()

[学歴]: (大卒) 農学系 備考: 配属先の要望

[性別]: () 備考:

[経験]: (実務経験) 2年以上 備考: 配属先の要望

[参考情報]:

- ・バイオテクノロジー関連の学部卒が必須
- ・植物組織培養・種苗生産の経験者が望ましい

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]: (高地地中海性気候) 気温: (0~25°C位) [電気]: (安定)

[通信]: (インターネット可 電話可) [水源]: (安定)

【特記事項】

ラパス市にある農牧・自然資源研究所をメインの活動拠点とし、活動内容によっては各試験場が持つ宿舎に宿泊する場合もある。
同大学は、2025年より市場志向型農業(SHEP)推進の戦略的パートナーとしてJICAとの連携を深めている。

【類似職種】